

校長室より

「天空高き」



第78号



平成27年12月3日

あいさつは会話の第一歩—2学期あいさつ運動週間—

生徒会主催のあいさつ運動週間が11月16日（月）から21日（土）までありました。今回も運動部と文化部18クラブの生徒諸君が、楽学の碑・校門前・JR南岩国駅前の3か所で、早朝より、明るい元気なあいさつを交わしてくれました。

どこの国でも、会話の第一歩はあいさつで始まり、あいさつで終わります。明るく元気なあいさつは、相手の心の扉を大きく開きます。そして、人間関係を良くしてくれます。

あいさつのポイントは、あ：明るく い：いつも さ：先に つ：続ける ことです。

また、会話は、話し方や聞き方次第でさらに人間関係が深まります。

先般「夢トーク in やまぐち講演会」が山口県セミナーパークで開催されました。その講演で、櫻井弘講師（話し方研究所代表取締役）が、「人間関係を良くする話し方」～話し方次第で人間関係は良くなる～という演題の中で、「会話で大切なのは、常に"相手"を意識すること。そして、①自分から進んで働きかける"積極的な心" ②相手の気持ちに目を向ける"共感的な心" ③変化する相手と状況に対応する"柔軟な心"等の心の持ち方で、さらに会話が弾む。」ということをお話されました。

私も時々会話が弾まない時があります。そんなときは、"積極的な心" "共感的な心" "柔軟な心"のどれかが欠けているということです。大いに参考にしたいと思いました。

「すぐに役立つことはすぐに消えていく」という言葉を大切にしています。回り道をして汗をかいて努力したこと以外は本物にならないと感じています。

三田 周作（株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 代表取締役社長）



クリーン大作戦一場を清めるー

毎年恒例のクリーン作戦が 11 月 21 日土曜日の午後、地元の愛宕社会福祉協議会の方々と協力して行われました。

参加者は付属中の有志 70 名と教員 5 名です。学校を起点に J R 南岩国・イズミ周辺、岩国医療センター方面に分かれ清掃活動をしました。

私は毎日 J R 南岩国や岩国医療センターの国道入り口周辺を巡回していますが、歩道脇の枯草がきれいに抜き取られ、ごみ等もなく、気持ちよく歩くことができました。

学校周辺をきれいにするということは、日頃お世話になっている地域の方々へのお礼ということだと思いますが、参加した生徒達は学校周辺がきれいになり、爽やかな気持ちになったと思います。また、清掃活動の様子を見ていた通りすがりの人たちやドライバーの方々もきっと、感謝の気持ちとさわやかな気持ちになられたと思います。

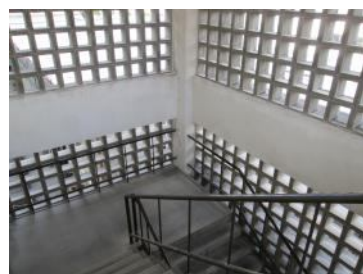


環境が人を育てる。とよく言います。きれいな環境は人の心を自然に和ませ、前向きな気持ちにさせてくれます。きれいにするということは、自分の心もきれいにします。そんな人はごみを捨てることもしないでしょう。すると、今度は人が良い環境をつくるようになります。良い循環ですね。

Do you know where this place is ?

毎日この場所を通る生徒の皆さんは、ここを通るときにどのような感じを持っているのでしょうか。当然この場所は、風が良く通るので、冬は寒く、夏は涼しく感じていると思います。しかし、この幾何学的なデザインは素敵だと思いませんか。

私は今までに数えきれないくらいこの場所を歩いてきました。何気なく通過するときもあれば、ふと足を止めて3階から下を見下ろす時もあります。コンクリートブロックの隙間からの景色を楽しんだりする時もあります。多分そんな時は気持ちにゆとりがある時です。逆に、気持ちに余裕がない時でも、ここを通る時に隙間から見える景色に目が留まり、心が癒される時があります。この学園にはそんな所がたくさんあります。皆さんもそんな場所があれば、是非私に紹介してください。



友達と親友は？

中1の教室前の廊下に、右の写真のような掲示版がありました。

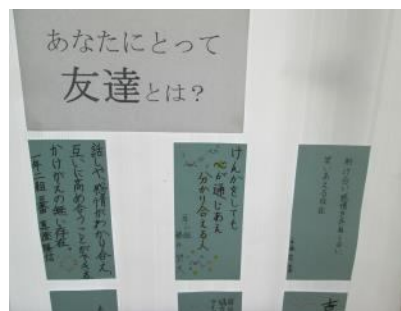
「あなたにとって友達とは？」生徒たちの書いたものを読みながら、ふと、友の前につく2字熟語どのくらいあるのかな。と思いました。

親友、心友、真友、級友、学友、そして悪友。私が思いつく熟語はこのくらいでした。

そして、次に、「友達と親友はどう違うのだろうか」という疑問を持ちました。

広辞苑を引くと、【友達】親しく交わっている人【親友】信頼できる親しい友と説明がありました。ということは、信頼できる「友達」が「親友」でしょうか。

私にはたくさんの友達がいます。そして親友もいます。この学園で皆さん、たくさんの友達、そして何でも相談できる親友をつくってください。



チャレンジ！－失敗をたくさんしよう－

右の「教育随想」（昭和62年）は前理事長である宮川澳男（いくお）先生の著書です。

その中に「学規」という項目があります。学規とは、皆さんにとってわかりにくい言葉だと思いますが、「規範」、皆さんが学校生活をおくる上で大切なこと、と理解してください。

宮川先生は3つ挙げられています。

1. 徳性の陶冶（とうや）を旨とすべし
1. 健康を重んじたえず学問に励むべし
1. 学園の伝統を尊び日々新面目（ひびしんめんもく）あるべし

1番目の、徳性の陶冶は本校の建学の理念です。学校生活全般－学習活動、HR活動、生徒会や学校行事そして部活動等－を通して、しっかり人格の錬成に努めてもらいたいと思います。

2番目は説明の必要がありませんね。3番目の「日々新面目」は、「日々、自身の新しい姿や有り様を見出すような生き方をしなさい」という意味でしょうか。私なりに解釈すると、「チャレンジしなさい」ということです。

「チャレンジ」という言葉は、皆さんにとっては、耳にタコができるくらい、よく聞く言葉だと思います。

私はいろいろな場で「チャレンジ」という言葉を使いますが、実は、自分に発した言葉でもあります。

私は今まで数え切れないくらいの失敗を繰り返してきました。皆さんに言うのが憚（はばか）られるくらい、たくさんの失敗をしました。しかし、どうかこうして教員生活を続けることができるのは、多くの生徒達、教職員仲間、家族や友人達の支えがあったからです。



失敗しても前を向いて歩き続ける限り、周囲の多くの人達が必ず手を貸してくれます。きっと、彼らも私と似たような失敗を体験したからではないでしょうか。

だれも最初から失敗すると思ってチャレンジしていません。だれもが成功の可能性を信じてチャレンジしています。

「ホンダ」の創業者である本田宗一郎氏の言葉は、私達を本当に勇気づけてくれます。

『チャレンジして失敗を恐れるよりも何もしないことを恐れろ』

本田宗一郎（『ホンダ』創業者）

チャレンジして失敗を怖れるよりも、何もしないことを恐れろ。

人生は見たり、聞いたり、試したりの 3 つの知恵でまともになっているが、多くの人は見たり聞いたりばかりで一番重要な“試したり”をほとんどしない。

ありふれたことだが失敗と成功は裏腹になっている。みんな失敗を恐れるから成功のチャンスも少ない。

多くの人は皆、成功を夢見、望んでいます。私は、“成功は、99 パーセントの失敗に与えられた 1 パーセントだ”と思っています。

開拓者精神によって自ら新しい世界に挑み、失敗、反省、勇気という 3 つの道具を繰り返して使うことによってのみ、最後の成功という結果に達することができると私は信じています。

失敗が人間を成長させると私考えている。失敗のない人なんて本当に気の毒に思う。

二十四節気 冬至（とうじ） 12 月 22 日頃 北半球では、正午の太陽の高度が一年中で最も低く、昼が最も短く、夜が最も長い日です。この日を境に次第に日脚（あし）が長くなって行きますが、寒さはますます厳しくなって行きます。

冬至には、かぼちゃやこんにゃくを食べて柚子湯に入る習慣があります。冬至にかぼちゃを食べるのには、中風（ちゅうふう）（脳卒中）や風邪を引かないとか金運を祈願する意味があるようです。実際にかぼちゃには、体内でビタミンに変化するカロチンがたっぷり含まれています。ビタミン A は、肌をツヤツヤにし動脈硬化の予防（中風予防）になるだけでなく、皮膚や粘膜、視力、骨や歯にも効果があるものです。かぼちゃを食べて風邪知らずです。

